北海道支部会報

日本細菌学会北海道支部

2008 年 7 月　第 17 号

編集・発行：日本細菌学会北海道支部

目　次

第 76 回日本細菌学会北海道支部学術総会開催にあたって（鈴木定彦）・・・・・・・・・・・ 2
第 75 回日本細菌学会北海道支部学術総会を終えて（中澤太）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
FMS Japan、IUMS2011 ならびに
2011 年の日本細菌学会北海道支部学術集会について（柴田健一郎）・・・・・・・・・・ 5
平成 19 年度　日本細菌学会北海道支部　活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
日本細菌学会北海道支部　平成 21 年度予算案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
日本細菌学会北海道支部　平成 19 年度会計報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
日本細菌学会北海道支部会則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
日本細菌学会北海道会員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
日本細菌学会北海道支部平成 19-21 年度役員・名誉会員名簿・・・・・・・・・・・・・ 20
日本細菌学会北海道支部　歴代支部長名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
日本細菌学会北海道支部　学術総会歴代開催記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

第76回日本細菌学会北海道支部学術総会開催にあたって

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター
鈴木　定彦

平成20年度の第76回日本細菌学会北海道支部学術総会開催のお手伝いをさせていただくことを誠に光栄なことと思っております。しかしながら、私は日本細菌学会北海道支部会に入会して日が浅いため支部の実情を充分に理解していないことと、学術総会を主催することも初めてということで、大変不安に思っているところであります。既に、前総会長の中沢太先生より引継ぎを終え、総会期日は9月6日（土曜日）に決定し、柴田健一郎支部長より御指導を仰ぎながら、支部の会員の皆様に少しでも御満足頂ける学術総会にすべく準備を進めております。今回の会場は、北海道大学大学院獣医学研究科附属動物病院講堂ということで交通の便は少し悪いかと思いますが、是非、多数の皆様が御発表並びに御参加下さるよう、お願い申し上げます。

さて、今回は「らい菌の遺伝子型別とハンセン病感染様式解析への応用」と言う演題で、国立感染症研究所ハンセン病研究センターの松岡正典先生に特別講演をお願いいたしました。松岡正典先生は、長年にわたりハンセン病の研究に携わってきており、日本のみならず世界のハンセン病研究の第一人者であります。先生のハンセン病研究分野での業績は枚挙に暇がございませんが、特に「遺伝子型別法を用いた分子疫学的研究」と「薬剤耐性に係る遺伝子変異の研究」は群を抜いております。今回は先生がお得意な分野のうち、「遺伝子型別法を用いた分子疫学的研究」における様々な知見についてお聞かせいただくこととしました。現在、細菌学領域におきましては、種々の遺伝子型別法を利用して、感染経路の解明の試みが為されております。それらの中でも松岡先生のハンセン病の分子疫学的研究はユニークで、ハンセン病の起源のみならず人類の移動の歴史にまで知見を与えるものであります。今回の講演では、「遺伝子型別法を用いた分子疫学的研究」から見えてくる様々な事実について、ハンセン病研究者のお立場からご講演いただきます。この特別講演を通して、「遺伝子型別法を用いた分子疫学的研究」とは何か、またそれにより何が得られるのかといったことを知ることによって、日本細菌学会北海道支部の会員並びに若手研究者の皆様が、それぞれの研究の発展のみならず、新しい細菌学領域の発見やテーマの創生に御役立てて頂ければ幸いです。

第75回日本細菌学会北海道支部学術総会を終えて

北海道医療大学歯学部　口腔生物学系　微生物学分野
中澤　太

日本細菌学会北海道支部に入会してまだ日が浅いため支部の実情を充分に理解していない私にとって、平成19年度の第75回日本細菌学会北海道支部学術総会を無事終了できたことにとても安堵しています。支部長の柴田先生はじめ、御協力頂いた関係各位の方々、更に協賛頂いた（株）メデカル・ライフ・ライン、（株）ヤクルト本社北海道支店、モリタ、関販売テクノの各社、当分野のスタッフの方々に深く感謝致します。

今回の第75回学術総会の演題数は１８題と比較的多い演題であり、また参加者も５０名を越える大人数で、活発な学術的討論がなされたと考えています。また特別講演「歯周病への罹患と全身の健康状態との関連性」（北海道医療大学歯学部 口腔機能修復・再建学系歯周歯内治療学分野　古市保志教授）は歯学分野以外の参加者にも好評で、沢山の質問、討論が交わされことに、この特別講演を企画した責任者として胸をなでおろした次第です。更に総会後の懇親会には１８名の先生方が出席下さり、ワキアイアイの中で親睦の輪を強めることができたと思います。今回の学術総会が、日本細菌学会北海道支部会員各位の皆様にとって有意義であり、それぞれの研究発展や研究テーマの創生に御役立てて頂けたら幸いと考えております。

さて、今回の総会開催に際して、準備等を通して気付いたことを以下に列挙したいと思います。

会場：交通の便がとても良い“北海道医療大学サテライトキャンパス”を、当局の御理解によって安い費用で使用できましたことは、開催の財政上とても助かりました。また、懇親会会場も総会会場から近く、食事などの内容等も良かったかと思っています。
抄録の募集：Eメールの添付と言う方法で抄録の募集を行ないましたが、費用や手間などが大幅に縮小されたと考えています。
抄録集の郵送：全支部会員に郵送したのですが、戻ってきたケースがありました。会員名簿を常に更新しておく必要性を強く感じました。所属、住所、電話、Eメールアドレスなどの変更が生じた場合には、直ちに支局長にご連絡下さる様、この場をお借りしまして、支部会員の皆様にお願い致します。

また、抄録集を作成し郵送する費用として今回は約８万円を要しました。節約のためには抄録集をPDFファイルとして、メーリングリストを介して発送することも、今後の検討課題かと思いました（そのためには正しいメールアドレス等の把握が不可欠となりますが）。
当日の進行：発表のパワーポイントファイルは、総会の当日に会場で受け付けました。そのため、発表と発表の間に時間が空かないように、発表には２台のPCを用いました。事前に入念な予行演習を行い、スムーズな進行ができるように心がけました。しかし、一部は滞った時間がありましたことをお詫びいたします。

最後になりましたが、本年度の第76回の日本細菌学会北海道支部学術総会の成功を祈念いたしまして本稿を閉じさせて頂きます。

FMS Japan、IUMS2011 ならびに 2011 年の日本細菌学会北海道支部学術集会について

日本細菌学会北海道支部支部長・北海道支部理事
柴田　健一郎

私は日本学術会議の連携会員であったために、日本微生物学連盟（Federation of Microbiological Societies of Japan : FMS Japan）の設立に立ち会うことができましたので、その設立の経緯と活動状況を報告いたします。

まず、現在の日本学術会議について簡単に紹介させていただきます。平成 17 年 10 月 1 日に日本学術会議は大改革を行いました。その主な改革内容は以下のとおりです。

1. 総合科学技術会議との連携強化を図るために総務省から内閣府に移管され、このことで内閣総理大臣の直属になり、政策提言機能が強化された。

2. 新たに連携会員制度が新設され、行動・実行力が増した。

3. これまでの 7 部制から 3 部制（人文科学、生命科学、理学・工学）になった。日本学術会議の下には、30 の常置委員会があり、その中で微生物関連の委員会として基礎生物学委員会、農学基礎委員会、生産農学委員会、基礎医学委員会、臨床医学委員会、応用生物学委員会の 6 委員会があり、さらに、それらの委員会の下に IUMS 分科会と総合微生物科学分科会が設置されています。IUMS 分科会と総合微生物科学分科会が合同して、何回かの会議を経て FMS Japan が平成 19 年 2 月 7 日に設置されました。設立の目的は、我国の微生物学関連学協会の連携強化と微生物学分野全般に関わる研究・教育の推進を通じて微生物学の発展を図り、微生物学分野における国際交流の促進を行うことにより社会に貢献すること、であります。最終的には、米国の ASM のような組織を目指しているものと推測されますが、現在はそれぞれ独自に活動している微生物関連学会の国際的な一つの窓口になることが大きな目的のようです。現在、日本ウイルス学会、日本細菌学会、日本医真菌学会、日本感染症学会、日本寄生虫学会等の 19 の微生物関連の学術団体が加盟しております。当面の仕事は、北海道大学前副学長の冨田房男先生が主催される 2011 年札幌で開催される IUMS2011 の準備であります。IUMS2011 の細菌学ならびに応用微生物学関連の発表は 2011 年 9 月 5 日から 9 日までの間に開催される予定で、例年の北海道支部学術集会が開催されている時期と重なってしまいます。日本細菌学会では、笹川理事長の命によって IUMS2011 のプログラム委員が選定され、準備にとりかかっています。微生物関連の国際学会が札幌で開催されるわけですから、北海道支部会としても何かの協力をする必要が生じるかもしれません。不確定な情報ではありますが、2011 年の日本細菌学会学

術総会をIUMS2011にドッキングする話もでているようです。今後、北海道支部会としても何らかの対策を立てる必要があるのではないかと考えております。その方策としては、

1. 北海道支部学術集会を止めて、IUMS2011に演題を出す、
2. 時期を変更して北海道支部学術集会を開催する、
3. 北海道微生物関連の支部会と合同してIUMS2011に演題をだす等が考えられます。

会員の皆様もこのことに関して少し考えていただき、次の 76 回日本細菌学会海道支部学術総会の時にでもご意見をお聞かせください。

平成 19 年度　日本細菌学会北海道支部　活動報告

活動報告

1．第 1 回日本細菌学会北海道支部評議員・幹事会議事録

日時：　7 月 24 日、18：00～

場所：　北海道大学歯学部５Ｆ第３ゼミナール室

出席者：木村　浩一、藤井　暢弘、中澤　太、磯貝　浩、安田元昭、横田　伸一、長谷部　晃、山口　博之、横沢　紀子、柴田　健一郎、鎌口　有秀、小華和　柾志、高橋晃一

議題：

1）　支部総会について

・プログラムについて

総会会頭の中澤先生に説明していただいた後、皆さんの意見を聞く。中澤先生は急用のため、代わりに鎌口先生が説明された。

鎌口先生から開催場所ならびに時間等の説明があった。一般演題 18 題と特別講演１題ということであった。

・座長の決定方法

ここ２年間行ってきたやり方は変更した方がいいという意見が多く、変更に関する反対意見は全くありませんでした。そこで、以前のように、関連ある一般演題３～４題に一人の座長をつけるという方針に変更し、座長を決定した。ただし、座長は単なる進行をやるのではなく、演題の背景等をある程度説明した方が好ましいという意見が藤井先生から出された。

・次期の支部総会会頭候補について

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターの鈴木定彦先生に支部長がお願いすることに決定した。

・支部総会号の作成について

今回から支部総会会頭が作成することという合意が得られた。支部長が支部総会会頭をやるという提案がなされたが、このことに関しては来年度以降論議することが合意された。

・報告と協賛金について

これまでと同じ広告料で、Ａ４版縦長（４万円）：縦 230mm×横 160 mm のサイズを 250 mm x 180 mm に、Ａ４版横長（２万円）：縦 120mm×横 160 mm を 125 mm x 180 mm に変更するという合意がなされた。

２） 集談会

著名な先生の何かの講演にあわせて開催するというやり方でよいということになった。理由は、集談会のみだと参加者が少なく、講演される先生に失礼になるということと、資金面での問題である。今回の集談会の演者である Prof. J. Gruenberg には３万円の謝礼を出してもよいという合意が得られた。

２．集談会―第 49 回歯科基礎医学会総会の特別講演を共催

Prof. Jean. Gruenberg

(Department of Biochemistry, University of Geneva)

「INTRA-ENDOSOMAL MEMBRANE TRAFFIC」

座長：　脇田　稔　（北大・副学長・理事）

日時：　8月30日　（木）15:00 - 16:00

場所：　クラーク会館　A会場

３．第 75 回日本細菌学会北海道支部学術総会

会期：　平成 19 年９月８日（土）

会場：　北海道医療大学サテライトキャンパス

（札幌市中央区北３西４丁目　日本生命ビル５Ｆ　ACU 内）

特別講演：

「歯周病への罹患と全身の健康状態との関連性」

古市保志　先生

（北海道医療大学歯学部 口腔機能修復・再建学系 歯周歯内治療学分野）

日本細菌学会北海道支部　平成19—21年度役員・名誉会員名簿

支部長	柴田　健一郎	北大院・歯学・口腔病態・口腔分子微生物学
幹　事	磯貝　恵美子	北海道医療大・歯学・口腔衛生学
	木村　浩一	北海道立衛生研・細菌
	高橋　樹史	酪農学園大・獣医学・獣医伝染病学
	中岡　祐司	北海道石狩家畜保険衛生所
	安田　元昭	北大院・歯学・口腔病態・口腔分子微生物学
	横田　伸一	札幌医大・医学・微生物学
	長谷部　晃	北大院・歯学・口腔病態・口腔分子微生物学
	高橋　晃一	札幌医大・医学・動物実験施設部
	山口　博之	北大・医保健学・生体情報・感染制御検査学
	横沢　紀子	札幌医大・医学・微生物学
評議員	大山　徹	東京農大・生物産業・食品科学・生物化学
	菊池　直哉	酪農学園大・獣医学・獣医伝染病学
	藤井　暢弘	札幌医大・医学・微生物学
	中澤　太	北海道医療大・歯学・口腔細菌学
	磯貝　浩	札幌医大・医学・動物実験施設部
	藤田　晃三	札幌市衛生研
	鈴木　定彦	北大・人獣共通感染症リサーチセンター
	山口　啓治	北海道立衛生研・細菌
会計幹事	鎌口　有秀	北海道医療大・歯学・口腔細菌学
	小華和　柾志	北大院・医学・病態制御・病態解析・感染制御学

理　事	柴田　健一郎
評議員	大山　徹、菊地　直哉、柴田　健一郎、藤井　暢弘
名誉会員	林　喬義、梁川　良

日本細菌学会　北海道支部　歴代支部長名

1	昭和	22～31	中村　豊	北大・医学・細菌・教授、北海道立衛研・所長
2		32～33	根井外喜男	北大・低温研・医学部門・教授
3		34～35	山田守英	北大・医学・細菌・教授
4		36～37	平戸勝七	北大・獣医学・家畜衛生・教授
5		38～39	植竹久雄	札幌医大・医学・微生物・教授
6		39～42	高橋義夫	北大・結核研・予防部門・教授
7		43～44	三浦四郎	北大・獣医学・家畜伝染病・教授
8		45～46	飯田廣夫	北海道立衛研・副所長
9		47～48	大原　達	北大・結核研・細菌部門・教授
10		49～50	林　喬義	札医大・医学・微生物・教授
11		51～52	熊谷　満	北海道立衛研・疫学部長
12		53～54	鈴木　武	北大・歯学・口腔細菌・教授
13		55～56	梁川　良	北大・獣医学・家畜衛生・教授
14		57～58	黒田収子	北海道薬大・微生物・教授
15		58（残任）	山本健一	北大・免疫研・血清学部門・教授
16		59～60	飯田廣夫	北大・医学・細菌・教授
17		61	伊佐山康郎	家畜衛試・北海道支場・室長
18		62～63	小熊恵二	札幌医大・医学・微生物・教授
19		64～平成２	宮川栄一	家畜衛試・北海道支場・室長
20	平成	3～6	皆川知紀	北大・医・細菌・教授
21		7～8	平棟孝志	酪農学園大・獣医学・獣医伝染病・教授
22		9～10	中島良徳	北海道薬大・微生物・教授
23		11～12	渡邊継男	北大・歯学・口腔細菌・教授
24		13～14	藤田晃三	札幌市衛研・所長
25		15～16	菊池直哉	酪農学園大・獣医学・獣医伝染病・教授
26		17～18	磯貝　浩	札幌医大・医学・動物実験施設部・助教授
27		19～	柴田健一郎	北大・院歯・口腔病態・口腔分子微生物・教授

日本細菌学会北海道支部学術総会歴代開催記録

回	開催年月日	総会世話人／総会長	総会開催場所
18	1961.2.17		北海道大学医学部講堂
19	1961.11.28		北海道大学農学部新館
20	1962.2.17	植竹久雄（北海道大学医学部）	札幌医科大学西第２講堂
21	1962.11.17	飯田広夫（北海道立衛生研究所）	北海道立衛生研究所
22	1963.2.23	山田守英（北海道大学医学部）	札幌医科大学西第２講堂
23	1963.12.6	植竹久雄（北海道大学医学部）	北海道大学農学部本館中講堂
24	1964.2.22	平戸勝七（北海道大学獣医学部）	北海道大学獣医学部
25	1964.12.4	林　喬義（札幌医科大学医学部）	札幌医科大学西第３講堂
26	1965.2.19	三浦四郎（北海道大学獣医学部）	田辺製薬ビル６F
27	1965.12.3	飯田広夫（北海道立衛生研究所）	北海道立衛生研究所
28	1966.2.18	伊藤英治（北海道大学理学部）	
29	1966.12.9	大原　達（北海道大学結核研究所）	田辺製薬ビル６F
31	1967.12.9	林　喬義（札幌医科大学医学部）	札幌医科大学西第３講堂
32	1968.2.23	飯田広夫（北海道立衛生研究所）	札幌医科大学西第３講堂
33	1968.12.6	山田守英（北海道大学医学部）	武田ビル
34	1969.2.27	高橋義夫（北海道大学結核研究所）	武田ビル
35	1969.12.12	三浦四郎（北海道大学獣医学部）	武田ビル
37	1971.1.22	飯田広夫（北海道大学医学部）	武田ビル
38	1972.2.26	大原　達（北海道大学結核研究所）	ムトウビル６F講堂
42	1974.9.27	林　喬義（札幌医科大学医学部）	ムトウビル６F講堂
43	1975.9.26	林　喬義（札幌医科大学医学部）	ムトウビル６F講堂
44	1976.9.17	熊谷　満（北海道立衛生研究所）	北海道立衛生研究所 共用東講堂
45	1977.9.30	熊谷　満（北海道立衛生研究所）	ムトウビル６F講堂
46	1978.9.29	鈴木　武（北海道大学歯学部）	北海道立衛生研究所 共用東講堂
47	1979.9.22	鈴木　武（北海道大学歯学部）	北大歯学部講堂
48	1980.9.26	梁川　良（北海道大学獣医学部）	ムトウビル６F講堂
49	1981.9.17	梁川　良（北海道大学獣医学部）	ムトウビル６F講堂
50	1982.9.17	山本健一（北海道大学免疫科学研究所）	ムトウビル６F講堂
51	1983.9.9	黒田収子（北海道薬科大学）	
52	1984.10.26	飯田広夫（北海道大学医学部）	ムトウビル６F講堂
53	1985.9.13	飯田広夫（北海道大学医学部）	ムトウビル６F講堂

54	1986.9.19	伊佐山康郎（家畜衛生試験場北海道支場）	ムトウビル6F講堂
55	1987.9.25	小熊恵二（札幌医科大学医学部）	ムトウビル6F講堂
56	1988.10.21	小熊恵二（札幌医科大学医学部）	大通り公園ビル(ヤクルト)会議室
57	1989.9.29	宮川栄一(家畜衛生試験場北海道支場)	家畜衛生試験場北海道支場会議室
58	1990.9.28	宮川栄一(家畜衛生試験場北海道支場)	
59	1991.11.15	皆川知紀（北海道大学医学部）	ムトウビル6F講堂
60	1992.11.20	皆川知紀（北海道大学医学部）	北海道大学百年記念会館講堂
61	1993.11.13	平棟孝志（酪農学園大学獣医学部）	酪農学園大学獣医３号館
62	1994.10.29	中島良徳（北海道薬科大学薬学部）	北海道薬科大学
63	1995.10.7	馬場久衛（北海道医療大学歯学部）	北海道医療大学Ｐ１講堂
64	1996.9.21	江口正志(家畜衛生試験場北海道支場)	農林水産省北海道農業試験場
65	1997.10.25	渡邊継男（北海道大学歯学部）	北海道大学術交流会館
66	1998.10.24	都築俊文（北海道立衛生研究所）	北海道立衛生研究所講堂
67	1999.10.23	藤田晃三（札幌市衛生研究所）	札幌市衛生研究所
68	2000.9.28.29	中根明夫（弘前大学医学部）	弘前大学医学部
69	2001.10.27	絵面良男（北海道大学水産学部）	北海道大学水産学部
70	2002.10.26	菊池直哉（酪農学園大学獣医学部）	酪農学園大学学生ホール
71	2003.9.14	大山　徹（東京農業大学）	東京農業大学
72	2004.9.3	藤井暢弘（札幌医科大学）	札幌医科大学記念ホール
73	2005.9.17	柴田健一郎（北海道大学）	北大学術交流会館
74	2006.9.2	磯貝　浩（札幌医科大学）	ムトウビル6F講堂
75	2007.9.8	中澤　太（北海道医療大学）	北海道医療大サテライトキャンパス
76	2008.9.6（予定）	鈴木　定彦（北海道大学）	北海道大学大学院獣医学研究科附属動物病院講堂

1～17 回、30 回、36 回、39～41 回は不明